

企業名： 株式会社アドバネクス

レポート名： 期末レポート

1. この会社が目指す姿が理解できるか

株式会社アドバネクス(以下アドバネクス)は、『「世の中の役に立ちたい。お客様の課題を解決したい」という思いが原動力。イノベーションにより新たな価値を生み出し、サステナビリティに貢献します。』をモットーに活動している、精密機器類のを生産する会社だ。主な生産は、自動車のエンジン内部の製品である。ポリシーは、ユニークに対応(モノマネはしない)、変化に対応し変化を作る(現状維持は後退)、常にシンプルかつスピーディーに、主体的に行動し指示を待たない、全ての製品に心を込める、失敗を恐れずに挑戦し続ける姿勢を崩さないの7つである。経営の観点から見ると、ありきたりな目標が並べられているばかりで、具体的な数値目標が明確でないことが多々ある。SDGsや環境への取り組みのページからは、国際的に目指している持続可能な社会へ貢献している内容がよく把握できる。さらに、環境負荷の少ない製品への移行を進めていることから、環境に配慮した令和時代の企業を目指していると理解できる。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

競争優位性を考えるうえで、主な生産を占めている自動車部品産業に着目した。日本はガソリン車を中心とはいえ、今後の電気自動車への発展に目を瞑るわけにはいかない。統合報告書のなかでは、この電気自動車と対応する部品の生産が、他の同種企業に比べて発展しているため、優位性があるのではと考えた。生産部品を紹介する中でも、最初の方に電気自動車のことを取り上げているのは、企業としても株主により見てもらいたい姿勢があるからだろう。電気自動車の世界的生産割合を見てみると下のグラフから分かる通り、中国や欧米が主である。アドバネクスは、現在中国や欧米を中心に15拠点を展開しており、その中でも中国の支店が多いことから、今後の利益に直結するので、競争優位性は高いと思われる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

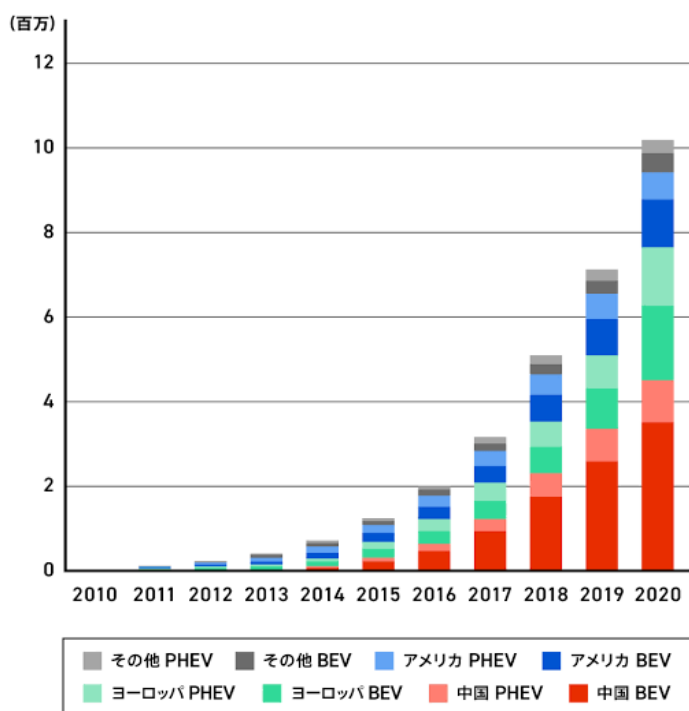
統合報告書を見るだけでは、今後の持続性は理解しにくいのではないかと感じた。目標値や自社の強みとなる中国への展開が、大々的に書かれているわけではないからだ。しかし、部品の全ての種類を写真と共に掲載することで、どれか1つの種類が生産不能になったり、市場が崩壊したりしても、あらゆる方法で対応できることを株主に示すことはできているかもしれない。端的にいうと、統合報告書をみただけでは、持続性を具体的にあらわしている場面は少なかったように思う。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

アドバネクスでは、社員教育の一環として外部からビジネス教育の援助をおこなっている。自社の中で教育をおこなっているわけではないので、そこまで力を入れているとは言えない。しかし、部品を生産する会社ということもあり、多くの顧客を掛け持ちし部品生産の調達をする中で、高度な情報処理能力やコミュニケーション能力がつくだろうと思われる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか。

私が最初に感じたことは、どの内容にしても抽象的になり過ぎているということだ。各部の部長の話においても、「様々な意見を取り入れてよりレベルアップをしていきたい。」などの、数値を1つも上げていない目標や願望が多く見られた。株主に更なる利益の見込みを示すためにもより具体的に述べるべきだと考える。



参考文献

<https://evdays.tepco.co.jp/entry/2021/09/28/000020>

東京電力 電気自動車について